

□ 合唱

保延裕史

2014年の合唱界は、急激な変動のない、比較的穏健な推移を見せた1年であった。生誕150年を迎えたR・シュトラウスの合唱作品がわが国でほとんど顧みられないのは残念だったが、例年に増して活発な動きが注目されたプロ合唱団、アマチュアを含め普段取り上げられる機会が少ない作品の優れた演奏が多く見られた。

1. 東京混声合唱団は1956年の創立以来、定期演奏会をはじめ日本各地や海外での公演、地元合唱団、子供たちとの交流、作品の委嘱初演等を通じて合唱音楽の普及に努めてきた。本年、山田和樹の音楽監督就任により指揮者陣の充実が一層図られ、近年著しい幅広い層への作品の浸透や団員の質的向上と共に、その存在意義の再認識がなされた。具体的には、第223回定期（田中信昭指揮「半生記の合唱の流れ」～佐藤藤明「海」他）、第224回定期（「山田和樹東混音楽監督就任記念」～クラウゼン「二重合唱のためのミサ曲」他）、第225回定期（大谷研二指揮「三善晃の合唱作品」～組曲「嫁ぐ娘に」他）、林光メモリアル・八月のまつり（大谷研二指揮、信長貴富「歌と石ころの転がる先に」・委嘱初演他）、大阪いずみホール定期、東京、静岡、横浜、秋田など特別演奏会が好評を博したほか、合唱指揮講座や少人数メンバーによる演奏会開催、愛唱歌集のレコーディングなど多方面で高く評価を集めた。
2. オーケストラとの共演から注目公演を列挙しておく。NHK響第1774回定期（F・ルイーダ指揮、オルフ・カトゥリ・カルミナ、カルミナ・ブラーナ、東京混声cho、東京藝大cho他）では難曲「カトゥリ・カルミナ」を含む2つのオルフ作品の連続上演が実現、東京都響第774回定期（J・フルシャ指揮、マルティヌー：カンタータ「花束」、新国立劇場cho、東京少年少女合唱隊他）ではマルティヌーの傑作の意義ある演奏、読売日響第535回定期（下野竜也指揮、ドヴォルザーク：レクイエム、国立音大cho他）の充実した演奏、仙台フィル（P・ヴェロ指揮、プーランク：ロカマドゥールの黒いマリアに捧げる連禱、グロリア、グリーンウッド・ハーモニー他）は取り上げられる機会が少ない作品の意義ある演奏、大阪フィル（H・ヴィンシャーマン指揮、バッハ：マタイ受難曲、大阪フィルcho、京都パッハcho他）では最長老指揮者の確信に満ちたパッハ解釈が聴けた。
3. 昨年亡くなった作曲家・三善晃氏を取り上げた演奏会が続いた。中でも前述東京混声合唱団（大谷研二指揮）と栗友会じゅういちもんめコンサート（三善晃合唱曲選集～栗山文昭初演作品による、栗山文昭指揮。混声合唱とピアノのための「であい」他）は悼悼に相応しい内容の演奏だった。
4. 第45回サントリー音楽賞を受賞したパッハ・コレギウム・ジャパンは国際的に評価される旺盛な活動を継続した。第108回定期（J・S・バッハ教会カンタータシリーズ、BWV 68）、第109回（世俗カンタータ、BWV213）、第110回（シュッツ・ダヴィデ詩篇より、他）、受難節のJ・S・バッハ「マタイ受難曲」、クリスマスのヘンデル「メサイア」（以上鈴木雅明指揮）で安定した演奏を示した。

5. プロ合唱団の公演から。関西の神戸市混声合唱団は地元で密着した活動のほか、神戸市演奏協会の一員として東京公演（石川星太郎指揮、神戸市室内o、M・ハイドン・レクイエム）などを行った。同じくびわ湖ホール声楽アンサンブルはオペラ上演のほか第54回定期「日本合唱音楽の古典Ⅲ」（沼尻竜典指揮、平井康三郎・山頂雷雨他）を行った。日本合唱協会は第190回定期「創立50周年記念日唱初演作品のタベ」（北原幸男指揮、高田三郎・水のいのち他）のほか、6回の定期公演を行った。
6. 来日した合唱団は多くはなかったが、初来日のヘルシンキ・アカデミー男声合唱団、同じく北欧からオルフェイ・ドレンガー（スウェーデン王立男声合唱団）、ノルウェー少女合唱団、ハンガリーのプロムジカ女声合唱団、ロンドンに本拠をおく先鋭的なグループVOCESS、最後の来日というヒリアード・アンサンブル、常連のウィーン少年合唱団など聴き応えのある演奏だった。
7. 第19回Tokyo Cantataは「やまとうたの血脈Ⅴ」をテーマとして、若い指揮者のための合唱指揮コンクール、コンサート・シリーズⅠ・日本のコト・バをうたう（宮澤賢治言葉と音楽）、コンサート・シリーズⅡ・日本の音素材による合唱（北の大地と南の鳥～アイヌと小笠原へのまなざし）、招聘講師によるクロージング・コンサートが行われた。第35回草津国際音楽アカデミー&フェスティバルはテーマ「R・シュトラウス生誕150年～ミュンヘン、ウィーン・ドレスデン」の一環としてドヴォルザークのミサ曲二長調が演奏（A・ヴィット指揮、草津アカデミーcho、草津フェスティバル管他）された。東京・春・音楽祭「東京のオペラの森」では「合唱の芸術シリーズ」が開始され、C・マンデル指揮東京オペラシンガーズ、東京都響によってガラ・コンサートが行われた。
8. 月別の注目公演を列挙する。
1月：ヴォーカルアンサンブル・カベラ「グレゴリオ聖歌とルネサンス・ポリフォニーのミサ」、ヘンデル・フェスティバル・イン・ジャパン（三澤壽喜指揮、オラトリオ「サウル」、2月：東京響（飯森範親指揮、オルフ「カルミナ・ブラーナ」、東響コーラス他）、岡山パッハ・カンタータ協会（H・J・シェレンベルガー指揮、ヨハネ受難曲）、弘前パッハ・アンサンブル（鳥口和子指揮、カンタータ第9番他）、松本パッハ祝祭アンサンブルvol.IV（小林道夫指揮、口短調ミサ）、グルッポ・ヴィーヴォ（信時潔・交響曲「海道東征」、横浜シンフォニエッタ、合同cho他）、3月：ヴォクスマーナ（西川竜大指揮、委嘱作品初演・三輪真弘、伊藤弘之、川島素晴、近江典彦）、4月：東京シティ・フィル（飯守泰次郎指揮、ブラームス「運命の歌」、東京シティフィル・コア）、5月：東京響（H・スダーン指揮、ペルリオーズ「テ・デウム」、東響コーラス、東京少年少女合唱隊他）、6月：古楽アンサンブル・コントラポント（花井哲郎指揮、ジャン・ジル「レクイエム」他）、読売日響（P・カリニャーニ指揮、ヴェルディ「レクイエム」、新国立劇場cho他）、タロー・シンガーズ（里井宏次指揮、シェーベルト「白鳥の歌・無伴奏混声合唱版）、札幌響（尾高忠明指揮、ヴェルディ「レクイエム」札幌cho、札幌放送cho他）、武蔵野合唱団（山田和樹指揮、スイス・ロマンド管、メンデルスゾーン・交響曲第2番「讃歌」他）、8月：京都市響（E・アウトウォーター指揮、ラター「マニフィカト」、京響コーラス他）、10月：新日本フィル（I・メッツマッハー指揮、ベートーヴェン「荘厳ミサ曲」、栗友会cho他）、日本センチュリー響（飯森範親指揮、マーラー・交響曲第2番「復活」、山形響、大阪センチュリーcho、山響アマデウスコア他）。